



福岡県生物多様性戦略 2022-2026

本県では、生物多様性に関する基本計画として、2013(平成25)年3月に「福岡県生物多様性戦略」を策定しました。その後の社会情勢の変化や各種施策の実施状況等を踏まえ、2022(令和4)年3月、新たな戦略として「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。

対象区域

福岡県全域を対象区域とします。ただし、生物多様性のつながりは行政区にとらわれないことから、必要に応じて福岡県に隣接する地域との連携を図ります。

計画期間

2022(令和4)年度から2026(令和8)年度までの5年間です。なお、中長期的な目標として、2050年を見据えた将来像を設定しています。



目指す社会の実現に向けた4つの行動指針



行動指針①

私たちの暮らしのなかで生物多様性を育みます

行動指針②

生物多様性の保全と再生を図ります

行動指針③

生物多様性の恵みの持続可能な利用を図ります

行動指針④

生物多様性を支える基盤とネットワークを構築します



福岡県生物多様性戦略のより詳しい情報は、福岡県公式ホームページをご覧ください。



生物多様性情報総合プラットフォーム 福岡生きものステーション



こちらからアクセス!

福岡県内の生物多様性に関する情報をまとめたホームページです。県内の生きものについて知るための便利な機能をたくさん掲載しています。ぜひご活用ください!

活用ポイント

- 生物多様性について知りたい
- 希少種・外来種・身近な生きものについて調べたい等



「生物多様性」とは何か、わかりやすく解説した動画も公開中

キッズページもあります

福岡生きものステーション キッズページ

キッズページで生きものについてまなぼう!

クイズもあるよ!



令和7年度 福岡県 生物多様性シンポジウム

ネイチャーポジティブの実現に向けて

～地域の生物多様性が日々の暮らしを豊かにする～



[司会者] 大田 ござう

ラジオパーソナリティ兼ナレーター
LOVE FM「月下虫音」パーソナリティのほか、FBS福岡放送「地元検証バラエティ 福岡くん。」などラジオ・テレビで活躍中。

なぜ自然を大切にすることが私たちにとって重要なのか。企業、行政、地域で暮らす私たち一人ひとりが、どんなことから行動できるかを考えてみませんか。

基調講演 13:05～14:10

変わりゆく社会を支える生物多様性：地域に根差した保全と活用のあり方



[講師] 西廣 淳 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長

専門は生態学。土木研究所、国土技術政策総合研究所、東京大学、東邦大学を経て、2019年度より現職。東京大学農学生命科学研究科連携併任教授、東邦大学理学研究科客員教授。

パネルディスカッション 14:20～16:00

社会・経済と生物多様性の関わり

- [コーディネーター] 朝廣 和夫 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授
- [パネリスト] 乾 隆帝 福岡工業大学 社会環境学部 教授
大神 弘太郎 一般社団法人ふくおかFUN 代表理事
川口 進 NPO法人田縁プロジェクト 理事長
中野 広将 うきは市水環境課 水資源対策係長

- 佐藤 景一 うきは市小塩地区自治協議会 会長
中本 陽子 フェアフィールド・バイ・マリオット道の駅プロジェクト マーケティング部長
小林 悟志 環境省九州地方環境事務所 地域生物多様性推進室 自然環境調整専門官
西廣 淳 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長

交流会 16:10～17:00

[主催] 福岡県 環境部 自然環境課

[後援] 環境省九州地方環境事務所、うきは市、SIP第3期 スマートインフラマネジメントシステムの構築 サブ課題e-1 魅力的な国土・都市・地域づくりを評価するグリーンインフラに関する省庁連携基盤

2026
2/19 (木)

13:00～17:00 (12:30開場)

クローバープラザ(クローバーホール)

福岡県春日市原町3丁目1-7 (JR春日駅前)



登壇者紹介

基調講演

テーマ「変わりゆく社会を支える生物多様性：地域に根差した保全と活用のあり方」



講師 西廣 淳 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長

専門は生態学。土木研究所、国土技術政策総合研究所、東京大学、東邦大学を経て、2019年度より現職。東京大学農学生命科学研究科連携併任教授、東邦大学理学研究科客員教授。
JBON（日本生物多様性観測ネットワーク）の代表として、地域の生物多様性調査の活性化や人材育成に向けた活動をしている。専門は湿地や湖沼の植物。また、日本自然保護協会の理事として、各地の生物多様性保全の支援や、生物多様性保全に資金の流れをつくる検討などを進めている。さらに、里山グリーンインフラネットワークを主宰し、主に千葉県を対象とし、行政、民間企業、市民団体など多様な主体と連携し、生物多様性を基盤とした地域づくりの活動を進めている。
これらの活動を通して重視していることは、生物多様性保全を主目的としない活動の「結果」として生物多様性保全も実現する社会の実現である。たとえば、静岡市の麻機遊水地では、敷地内の公園「あさはた緑地」において、教育・福祉を含む公園の利活用を重視しつつ、生物多様性保全も実現する取組を進めている。また千葉県の印旛沼流域では、企業の技術開発、福利厚生、地域貢献などの活動の一環としての活動が、効果的に地域の生物多様性保全につながる仕組みづくりを進めている。
「自然保護」を脱し、人と自然の関係を新しいフェーズに移行させる方策を模索中。関連の編著書に「人と生態系のダイナミクス」シリーズ（朝倉書店）などがある。

JBON
(日本生物多様性観測ネットワーク)



里山グリーンインフラ
ネットワーク



あさはた緑地



パネルディスカッション

テーマ「社会・経済と生物多様性の関わり」

コーディネーター 朝廣 和夫 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

博士(芸術工学)、専門は緑地保全学。主なテーマは、都市及び農山村における緑地環境の保全を目的とし、里山保全のボランティア活動をベースに、都市林や農山村の緑地を対象にアクションリサーチを展開。



パネリスト 乾 隆帝 福岡工業大学 社会環境学部 教授

奈良県出身(44歳)。九州大学農学部(水産学分野)で学んだ後、徳島大学、山口大学を経て、2019年に福岡工業大学へ。専門は水圏環境生態学で、水生生物、特に魚類の生息環境評価を得意としている。
水圏生態系の保全や持続的な利活用に資することを目標に、主に河川中流域、河口域、沿岸浅海域で、魚類を対象とした研究を実施している。これまで実施してきた研究内容は、環境DNAやAIを用いた画像解析のような調査・観測技術に関する研究、GISを用いた広域空間解析、相補性解析のような生態系評価技術に関する研究、水理シミュレーションや水温モデルのような環境変動予測技術に大別される。



福岡工業大学
【研究紹介】
「DNA」から生物を追跡
環境DNAで生物モニタリング



パネリスト 大神 弘太郎 一般社団法人ふくおかFUN 代表理事

福岡市出身。「自然伝承」を人生のテーマに掲げ、福岡を中心とする海に潜り続けるダイバー。25歳の時に世界各地を渡航する。2014年、一般社団法人ふくおかFUNを設立し「自然と人のつなぎ役」をミッションに活動を行っている。「ダイバーだからこそ」の視点やスキルを活かし、潜水や環境DNA調査によって得られる水中世界のリアルな情報を起点として、生物多様性の保全に取り組んでいる。行政・企業・漁業関係者・研究機関・教育機関・市民などの多様な主体と連携しながら、藻場の再生や海底ごみの回収、海洋教育をはじめとする活動を継続して実施している。体験や学びの場を創出し、人々の意識や行動の変化を促すことによって、ネイチャーポジティブな社会の実現を目指している。



一般社団法人
ふくおかFUN



パネリスト 川口 進 NPO法人田縁プロジェクト 理事長

1958年北九州市生まれ。九州大学農学部卒業後、福岡県農業改良普及員になり、減農薬稲作の普及、直売所を活用した地場産給食の導入に携わる。農林水産部食の安全・地産地消課長、農業大学校校長などを経て2019年定年退職。糸島市在住。
田縁プロジェクトは、糸島市の中山間地で農家が耕作できなくなった棚田を42枚(約3.5ha)預かり、170世帯のサポーターと共に米作りを主体とした会員制の農業によって、棚田を守っていく取組を行っている。お米はすべて有機無農薬栽培。この活動は今年で23年目を迎えるため、地元の方からは「棚田が荒れなくて助かる」「ホテルが増えたようだ」と感謝をされている。



井原山
田縁プロジェクト



パネリスト 中野 広将 うきは市水環境課 水資源対策係長

2010年にうきは市役所入庁。これまで税務課、市民生活課、企画財政課、保健課に所属。2022年から水環境課水資源対策係に配属となり、地下水保全や生物多様性の業務に携わっている。
うきは市は、豊かな自然環境のもと様々な生きものが生育・生息する地域であり、地域の声をきっかけに、生物多様性の取組が始まった。2021年に文献調査で約2900種を確認し、2022年以降は市内6か所で生物調査を行い、それを基にしたパンフレット作成、その後は生きもの観察会、自然観察モデルコースの設定や動画の作成等、生物多様性の魅力を伝える取組を行っている。



うきは市
生物多様性
関連パンフレット



パネリスト 佐藤 景一 うきは市小塩地区自治協議会 会長

40年間ほど県内農村地域の農業基盤や環境整備の調査・測量・設計と地域おこし等に従事。退職後はうきは市役所嘱託等を経て、現在地元の自治会長を務めている。
私たちの住む山里では、例年5月下旬から6月中旬にかけてほたるを楽しむことができる。しかし1960年頃、農薬や合成洗剤の大量使用により汚水が流出し、ほたるをはじめとする小さな生き物が絶滅寸前に追い込まれた。その後、食の安全・安心への関心が高まる中で減農薬や住環境整備が進み、ほたるの復活が各地で見られるようになった。これを契機に1989年、集落の小さな保護活動と都市との交流を目的に「ほたる観賞会」が始まり、今も地域の主要イベントとして続いている。



うきは自然さんぽ
動画配信の
お知らせ



パネリスト 中本 陽子 フェアフィールド・バイ・マリOTT道の駅プロジェクト マーケティング部長

プロジェクト全体のマーケティング担当として「未知なるニッポンをクエストしよう」をコンセプトに掲げ、うきはを含む各地のホテルを拠点に新しい持続可能な旅のスタイルの創出と発信に取り組んでいる。
オーナー会社である積水ハウスの「5本の樹」計画(在来樹種による生態系保全)に基づき、全国29箇所のホテル外構に地域の植生を導入。また、棚田での農業体験等のグリーンツーリズムを通じ、地域の営みを「体験価値」としてゲストに提供している。旅が地域の環境や文化を支える一助となるリジェネラティブな循環を目指し、ホテルが介在する価値共創の形を模索している。



フェアフィールド・
バイ・マリOTT
道の駅プロジェクト



パネリスト 小林 悟志 環境省九州地方環境事務所 地域生物多様性増進室 自然環境調整専門官

名古屋大学にて博士(学術)取得。国立情報学研究所、東京大学分子細胞生物学研究所、国立極地研究所、第52次日本南極地域観測隊員、法政大学兼任教員を経て、現職。環境省九州地方環境事務所に赴任。
今年度から自然共生サイトは、法律に基づいた制度となり、環境省、農林水産省、国土交通省が主務大臣となり認定される事となった。国内においては、現在までに485件の自然共生サイトが認定されている。国家戦略として、ネイチャーポジティブ経済移行の推進も図られ、担当官として、さらなる自然共生サイトの増進を進めるべく、申請者のサポート作業を行い、相談があった際には、現地に赴き、自然共生サイトに相応しいかどうか見定め、申請者が気づかない生態系価値を助言して、認定されるよう申請サポートをしている。



環境省
自然共生サイト

MEMO

アンケートへの
ご協力を
お願いします

本日の
シンポジウムについて
皆さまのご意見を
お聞かせください



こちらから
ご回答いただけます

